

たくさんさんの児童・生徒が参加しました

「白石でっちな奉公」は、これからの社会を背負って立つ子供たちに、地域の企業や商店などでの就労体験を通して、仕事の役割を理解してもらうとともに、社会生活に積極的に参加する意欲を持ってもらうおうと実施しているものです。

この事業は、平成十三年に白石区ふるさと会が始めたもので、翌年より白石区との共催で実施しています。昨年の実施で五年目となります。

今回は、地域の企業や商店などに、七十九の事業所が積極的に児童・生徒の受け入れに協力。南郷小学校の五年生百一人と幌東中学校、白石中学校、東白石中学校の二年生五百三十七人、合わせて六百三十八人が参加しました。

参加した児童・生徒たちは、企業や商店のほか、病院、保



育園、飲食店など、それぞれの希望した職場で従業員の一員としてさまざまな作業に汗を流しました。

手作りののぼりで後輩を応援

白石中学校では、平成十六年から「でっちな奉公」に参加する二年生を応援するため、三年生全員で手作りののぼりを作成しています。

昨年も、「フレ〜フレ〜！白石でっちな奉公」という応援メッセージのほか、後輩の働く姿などが描かれた三十六枚ののぼりが作られました。大きさは縦一・五尺、横〇・五尺程。本郷商店街の協力により、本郷通沿いに設置されました。同校の伊藤政幸先生は、「のぼりは、後輩のために『でっちな奉公』を盛り上げようという気持ちから生まれたもの。地域へのアピールにもなれば」と話していました。

仕事の大変さだけではなく命の大切さも知ってほしい

受け入れ事業所の一つである高橋動物病院は、「白石でっちな奉公」が開始された当時から児童・生徒の受け入れに協力しています。



高橋動物病院
聴診器を使い、犬の診察をする生徒たち

同院での仕事は、まず動物に触れることから始まります。犬を洗うことに始まり、院内の清掃や治療器具の洗浄、入院動物の世話などさまざまな仕事を体験しました。

同院の院長である高橋徹さんは、「子供たちには、仕事の大変さだけではなく、けがをした動物や捨てられた動物の世話などを通して、命の大切さも知ってもらえれば」と話します。

また高橋さんは、「この事業は、子供たちだけではなく、

受け入れる私たちにとっても非常にいい勉強。地域の多くの事業所に手を上げてほしい」と話し、事業のさらなる発展を願っていました。



「色々なことを感じて帰ってほしい」と話す高橋さん

「でっちな奉公」は「一つのまちづくり」

毎年多くの児童・生徒を受け入れている本郷商店街の振興組理事長を務める高山郁雄さんは、「商店街の間には、『でっちな奉公』を単なる職業体験としてではなく、まちづくりの一つとして捉え取り組んでいる」と話します。

「この『でっちな奉公』を通して、自分の住んでるまちの



（有丸高ドライクリーニング）
高山さんが経営するクリーニング工場でも子供たちがネクタイやワイシャツなどの袋詰め作業に汗を流しました

ことを知り、さまざまな経験をすることでもっと自分の住むまちを好きになってもらえれば」とこれからのまちづくりの主役になる子どもたちに大きな期待を寄せていました。



「まちづくりの原点と子どもである」と話す高山さん

「白石でっちな奉公奮闘記」

白石区ふるさと会と白石区では、「でっちな奉公」の様子を、参加した子どもたちの感想と写真を織り交ぜながら紹介する「白石でっちな奉公奮闘記」を作成しています。参加した子どもたちの感想には、「働くことの意味やお金の大切さを実感した」、「親に対する感謝の気持ちを持つことができた」というものが多く見られます。

なお、「白石でっちな奉公奮闘記」は、参加校や子どもたちを受け入れた事業所に配布されるとともに、区役所や区内の各まちづくりセンターで閲覧することができます。



平成16年度作成の「奮闘記」